

大伴小だより

富田林市立大伴小学校 令和4年1月28日（金）2月号



「自分への自信」と「未来への展望」

校長 堤 周作

新年が明けましたが、新型コロナウイルス感染が急激に再拡大し深刻な状況です。本校でも校内における感染の恐れがある事例が発生したため、関係機関と協議して当該学年を閉鎖しました。

また、大きな行事を2月まで中止し、引き続き、気が抜けない日々が続いています。

改めて保護者の皆様には、未曾有の事態に社会人としてご尽力され、かつ子どもたちを守り、さらに「学びを止めない」ために学校に様々なご理解とご協力を頂いていることに、心より感謝申し上げます。

昨今は情報化（ネット等）やグローバル化（経済や感染症等）の急激な進展など、答えの見えない予測困難な時代に突入しています。このような時代を逞しく生き抜いていかねばならない子どもたちは、この大きな変化を前向きに受け止め、自ら考え行動する力が必要です。そのような力の礎となるのは、子どもの「自分への自信」と「未来への展望」であると思います。そこで保護者の皆様には、何が起ころってもお子様に寄り添い、未来を励まし、「世の中っていいものだ」と感じさせてあげてほしいです。私ども教職員も保護者様と力を合わせ、子どもが自分も他人も大切にし、明るい未来に夢を抱き、先の見えない時代にしなやかに生きる術を身に付けられるよう、本年も教育活動の充実に努めてまいります。そのような教育活動の一環、“ほっこり”する取組みを一部紹介します。

【1/18:4年生 演奏家との交流:市芸術体験事業】

ヴァイオリン、ピアノ、コントラバスのプロの演奏家を招いた体験授業。聞いたことがある曲の作曲者の思いを教え、心に浮かべながら生演奏をしみじみと聞き、ヴァイオリンを弾く体験も。4年生は曲の味わい方、弦楽器の仕組みの話に目を輝かせ、心に残る貴重な体験になったことでしょう。曲目は、[愛のあいさつ] [チャールダーシュ] [動物の謝肉祭より象] [エリーゼのために] [ビリーブ]。



【1/19:6年生 乾 絵美さんとの交流:府オリンピック派遣事業】

2008年北京オリンピックソフトボール金メダリスト（決勝アメリカ戦で勝利し上野由岐子投手を肩車した捕手）で、現オリックスバファローズ職員（プロ野球初の女性スカウト）の乾 絵美さんが野球の良さを伝える授業。厳寒の中、「投げる、打つ」の基本動作の指導を、得意な子も苦手な子も楽しそうに受け、講話では「金メダルを取った時の気持ちは」など、児童の数々の質問に丁寧にお答え頂きました。

顕著な実績を持つ、乾さんの謙虚な姿勢と、温かく柔らかな語り、真直ぐな眼差し、「苦手なことから逃げないで」との言葉が印象に残りました。

【星野道夫（故人）さんとの交流】

話しは遡りますが7月、6年1組の教室を覗くと高校の文化祭のような熱気で何やら作っていました。国語の教科書で習った、星野道夫さん（アラスカの大自然を愛した写真家・探検家・詩人。1996年にテレビ番組の収録中ロシアで、ヒグマに襲われて亡くなられた）の「森へ」という紀行文の情景を場面毎に作成し、情景を感じながら朗読する取組みでした。この手作りの授業が可愛らしく愛らしく、文化的な雰囲気が満載（「大伴小ブログ」7/14に掲載）で、子どもたちの健気な一生懸命さ素直さに、心躍り見入っていました。

実は私の従姉（北九州市在住ジャズピアニスト）が星野さんと親しく、アラスカに何度か同行し、ドキュメンタリーDVDのBGMを手掛けていました。その縁で、関西で開催される星野道夫写真展に招待頂き、私もよく見に行っていました。星野さんが撮影した、厳しい北極圏で生き抜く動物や人々の、大きな生の写真を目の当たりにすると、自然に涙があふれてきます。その後、子どもたちが星野さんに宛てて手紙を書いていたので、従姉を通じて星野さんの妻の直子さんに送りました。すると年始に、直子さんから直筆のお手紙が、大伴小に届きました。

「森へ」の感想をお手紙にして書いて下さりありがとうございました。自然や動物のことを感じるきっかけになった様子を、とても嬉しく読みました。春からは中学生です。ね。充実した小学校での時間を楽しんで過ごして下さいね。 星野 直子



星野道夫さん



星野さんが撮影した写真

